

終末期のグループホーム 利用者の支援

大阪府障害者福祉事業団

地域生活総合支援センターきらら

支援員 牧野 英史

地域生活総合支援センターきらら



Uさんのプロフィール

- 性別：女性
- 年齢：逝去時63歳
- 障がい種別：知的障がい
- 障がい者手帳：療育手帳A
- 日中活動：
きらら生活介護にて作業的なプログラムを好まれていた
- 年金、財産、収入：
障害基礎年金と預貯金（逝去時約420万円）
- 家族構成、成年後見制度の利用：
単身者（相続人不在）、成年後見制度は利用せず
- 大阪府立金剛コロニーから地域移行支援により
グループホームへ

Uさんの性格

- 明るく賑やかで「商売上手」
- けれども「怖がり」な一面も

異変

- がん発症
- 「お腹の中の悪いムシ」をやっつけよう
- 治る見込みのある病気
＝「一緒に病気と戦う」関係

家族による医療同意の署名・捺印

- 単身者だが、医師から家族による手術の同意を求められた
- 後見人は選任されておらず、また、後見人に医療同意の権限がない
- 親族を探し奔走
- 援護の実施者を通じて遠縁のSさんにたどり着いた

遠縁のSさんが心の支えに

- 天涯孤独のUさんに、遠縁のSさんが登場、「心の支え」に
- 入院・手術の同意書に署名いただけただ
- 手術成功

手術後の経過

- 副作用の苦しみとの戦い
- 待ち望んだ日常へ
- しかし穏やかな日々は長くは続かず

再発・余命宣告

- がんが再発、余命は1年もない
- Uさんの性格、障がい特性、理解力、感性などから、到底受け入れられない事実
- Uさんに伝えれば、パニックとなり苦しみ続けることは目に見えていた

インフォームド・コンセント と緩和ケア医療

- 緩和ケア医療への紹介状は、告知が前提
- 本人主体、本人の納得と同意を得ながら治療を進める「インフォームド コンセント」
との葛藤
- 主治医の「難解な説明」を、支援者が「通訳」
でかみ砕き説明
- 「痛いのを上手になおしてくれる先生を教えてください
もらいましょう」

緩和ケア医療もさまざま

- ふさわしい医療機関を探した
- 比較的近場に緩和ケア病棟のある病院を見つけ、無事入院
- 日に日に病状は悪化

死後についてのこと

- 死によるUさんと私たち事業所との関係性消滅
- 遠縁のSさんには血縁も相続権もなし
- ご遺体引き取り、葬儀、病院への支払い、預かっている預貯金や家財の処理はどうすればよいか
- 「大阪弁護士会 高齢者・障害者総合支援センター—ひまわり」の無料相談を受けることに

ひまわり弁護士からの助言

- 「利害関係者」たる我々が民法に規定の「事務管理人」となり、ご本人からの預り金で支払いや葬儀等を行う
- 「相続財産管理人」が選任されるまで(約半年)必要最低限の支出と、領収書の保管のうえ出納簿をつける
- お金のない方の相談は「法テラス」がある
- 今後のために、グループホームの利用契約書に「死後事務の取り扱い」についての特約条項を入れてはどうか

弁護士に代理人委任

- Uさんには死後について触れることができない中で、弁護士から相続財産管理人の選任申立てができる方法を提案される
- Uさんのニーズから、「個別支援計画書」に「親族を探してほしい」と記載し署名いただいた
- Uさんからの依頼を受けた、きらら事業所が弁護士と「(死後は相続財産管理人選任申立へ切り替える内容での)親族調査」の代理人契約を交わし、実費をUさんに請求する形を取った

支援者に見守られての旅立ち

- 「個別支援計画書」への署名
- 痛みからは解放されたが、病状は悪化し、
会話もままならず
- 逝去と同時に、事業所とUさんとの関係消滅

逝去後のこと

- 病院からの「遺体の引取り」要請への即時対応が求められた
- 「死亡届」は死亡場所の「家屋管理人」すなわち「病院施設長」名義で、「死亡場所(住所地でも可)」の市町村へ提出し「火葬許可証」を受けた
- ささやかでも尊厳ある「安置」と「葬儀」ができた
- 「火葬」の領収書は「死亡届」の名義人あて
- 事前の預貯金を引き出し、葬儀代、弁護士費用(実費)、入院費用を支払った
- 両親の眠るお寺へ納骨した

仮に、市に遺体の引き取りと 葬儀をお願いした場合

- 「ただ焼くだけ」との回答

相続財産管理人の選任

- 約半年後に「相続財産管理人」が選任され、我々の「事務管理人」としての執行内容も適正とされ、預貯金や家財が処理された

死後事務委任の明記

- グループホームの利用契約書に「死後事務委任」を明記
- 社会的にも単身者のターミナルケアの在り方が前進しつつある

残された課題

- 協力いただける親族が見つからなかった場合は？
- 預り金のない利用者であった場合は？
- 余命宣告の「通訳」が不可であったら？
- 準備期間のない不慮の死の場合は？
- 事業所と利用者は、本当の「人と人の関係」になれるか？

ご清聴ありがとうございました